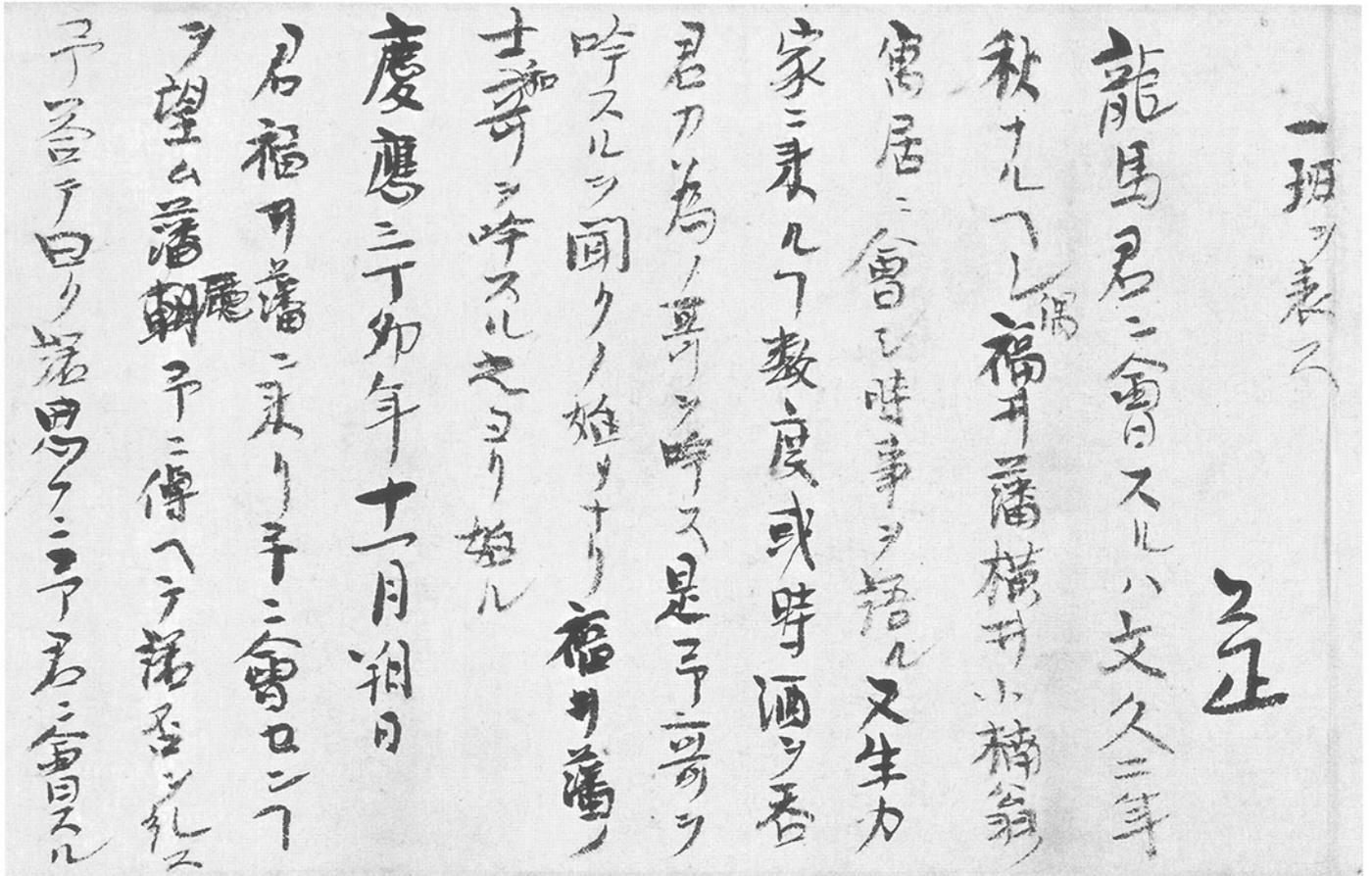


移転新築開館記念特別展

天下の事成就せり

—福井藩と坂本龍馬—

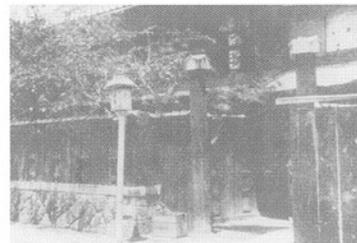
- 会場 企画展示室
- 会期 平成16年3月21日(日)~5月5日(水)



幕末の越前福井藩は16代藩主松平春嶽による斬新な藩政改革(能力主義の人材登用・洋の東西を問わない学問の奨励・貿易を中心とした経済政策)により、当代随一のいわば「智藩」として注目されました。この福井藩に興味と期待を抱いたのが土佐藩出身の「風雲児」坂本龍馬でした。龍馬は二度も福井を訪れています。一度は福井藩の経済力に魅了され、神戸海軍操練所建設資金援助をもとめました。もう一度は、福井藩の由利公正と会見し、大政奉還の決したことを伝え、新政府の財政について相談しています。

本展では、坂本龍馬という著名な人物の目を通して、近代黎明期福井の「元気」な姿を、第一級の福井藩および坂本龍馬関係資料で構成しています。

ゆりこうせい みつおが てんまつ
由利公正筆「坂本龍馬三岡八郎会見顛末」
明治6年(1873)カ 紙本墨書 15.4cm×122.6cm
福井市 丹巖洞主 宮崎信雄氏蔵(列品No.40)



旅館「苺屋」(列品No.40)

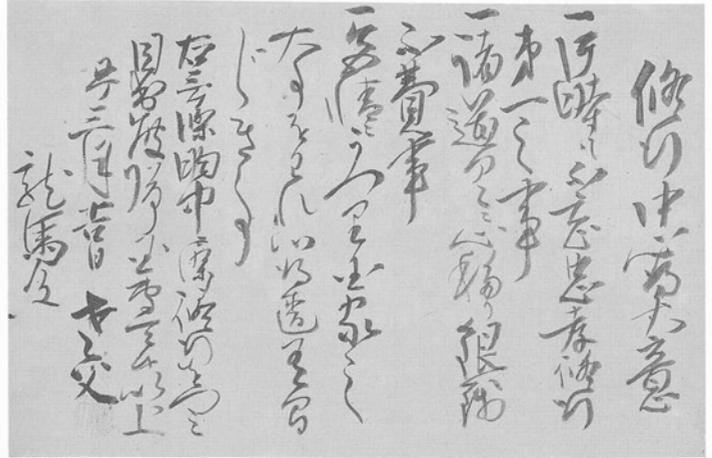
龍馬と公正が、福井城下山町の旅館「苺屋」(「煙草屋」「烟艸屋」とも。)で、会見したおりの内容を記録した公正直筆の手記です。数箇所に推敲のあとがみられ、自詠和歌二首が巻末に記

されています。また本書の「序文」から『由利公正傳』の「實話」や『坂本龍馬関係文書』のもととなった史料の草稿本で由利邸火災の翌年(明治6年)頃の執筆と考えられます。橋本左内・小原鉄心など福井藩内外の志士・藩士の密談場所として伝えられる福井市の丹巖洞(加茂河原1丁目)洞主(もと山本氏現宮崎氏)が今日に伝えたものです。

一、「土佐の風雲児」坂本龍馬

龍馬誕生 —その家系と生い立ち—

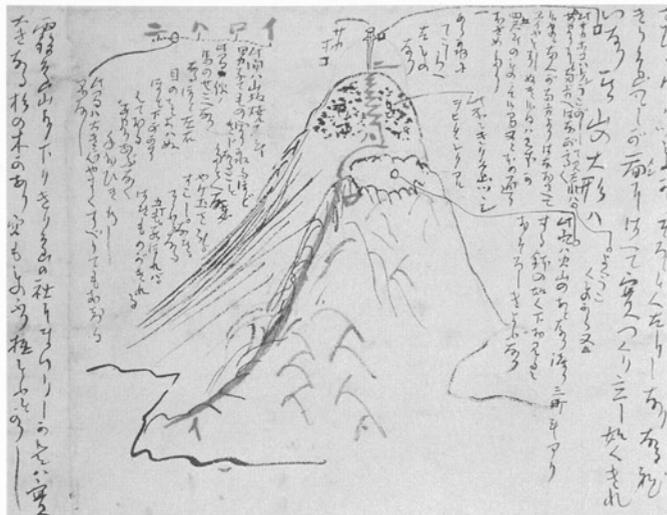
坂本龍馬は、豪商出身の郷土(藩士の下に置かれた郷村在住の武士)坂本家三代八平の末っ子(五人兄弟)として、天保6年(1835)11月15日高知城下に生まれました。坂本家の本家才谷屋の豊かな経済力を背景として、また町人出身の自由で柔軟な精神を持つ坂本家の環境によって龍馬は何不自由なく、むしろ甘やかされて育ったようです。しかし、12歳の時、母と死別した後は、3歳年長の姉乙女が、母代わりとして龍馬を厳しくまた温かく愛情豊かに育てました。乙女は、「泣き虫、寝小便たれ」の龍馬を一変させたと伝えられます。龍馬は成人してからも姉を慕い、それは生涯変わりませんでした。このことは、現存する龍馬書簡の多くが、姉乙女と乳母おやべ宛のものであることから窺えます。14歳の龍馬は、地元の日根野弁治道場入門し小栗流の剣術修行に励みました。また19歳の時には、江戸の千葉道場(北辰一刀流)でも修行しています。そして両流派ともいわゆる免許皆伝を授けられました。青年剣客龍馬の誕生です。



龍馬の父八平筆の訓戒書 息子龍馬宛 京都国立博物館蔵(列品No.18)

龍馬立つ

龍馬は剣客として世に登場しましたが、同時に、ペリー来航時臨時御用として、江戸湾の警備にかりだされたのち、国事に興味と関心を抱いたようで、江戸において、信州松代藩の兵学者佐久間象山の塾に入門します。さらに、文久元年(1861)9月には、土佐の武士瑞山(半平太)率いる土佐勤王党に参加しますが、翌年3月脱退し、土佐からも脱藩しました。剣客から志士龍馬への旅立ちでした。これより京都で暗殺されるまでの約5年間、龍馬は、東奔西走して国事に尽くします。福井藩と深い関わりを持ったのもこの時期でした。脱藩した龍馬は、幕臣勝海舟の門下生となり、神戸に海軍操練所を創ることに努めます。操練所廃止後は、総合商社ともいうべき「亀山社中」を長崎に結成、薩摩藩の名で、イギリス商人から小銃を買って長州藩に運び、長州の米を薩摩藩に運ぶなど単なるビジネスではなく、両藩の橋渡しをしてついに薩長同盟を締結させました。亀山社中は、土佐藩の海援隊となり、新政府の方針である「船中八策」をつくります。この5年間は、龍馬が最も輝いていた活動の時期でした。そして、忙しく国事奔走している時も、逐一国許の姉乙女らに手紙で報告し、妻お龍と、日本最初といわれる新婚旅行へも行っています。その手紙の面白さ文体の斬新さに魅了されます。



坂本龍馬書簡 姉乙女宛
妻お龍との新婚旅行を報告する部分 京都国立博物館蔵(列品No.29)

二、福井藩と坂本龍馬

龍馬來福

文久2年(1862)7月、前福井藩主松平春嶽は、幕府大老の職にあたる政事惣裁職に就任します。春嶽は、幕閣専制を「私政」として批判し、幕府と朝廷、幕府と大名といった「公論政治」を実現しようと考えていました。坂本龍馬が春嶽と出会ったのもこの時期でした。春嶽の手記『逸事史補』では、坂本龍馬が江戸で春嶽に会い、その紹介で勝海舟や横井小楠に会ったとみえています。確かに身分にかかわらず人材を藩内外から登用した春嶽でしたから郷土身分の龍馬でも紹介状があれば面会できたと考えられています。龍馬を勝に紹介したのも春嶽ではないかとみる向きもあります。ついに、龍馬は、福井にやってきます。文久3年(1863)5月16日のことでした。目的は、勝の命を受けて神戸に海軍の指導者を育てる操練所建設の資金調達のためでした。海軍力を増強することは、横井小楠の意見を入れた春嶽の構想と一致しました。そこで、幕府から調達した費用(三千両)を上回る五千両(福井藩の年間予算に当たる額)を融通したと言われますが、いかに福井藩が期待を大きく寄せていたかが窺えます。この時に龍馬は小楠の紹介で三岡八郎(由利公正)宅を訪ねています。足羽川の辺にあった三岡宅で、龍馬は、小楠・八郎両名と国事について充分語りあったようです。



松平春嶽肖像写真

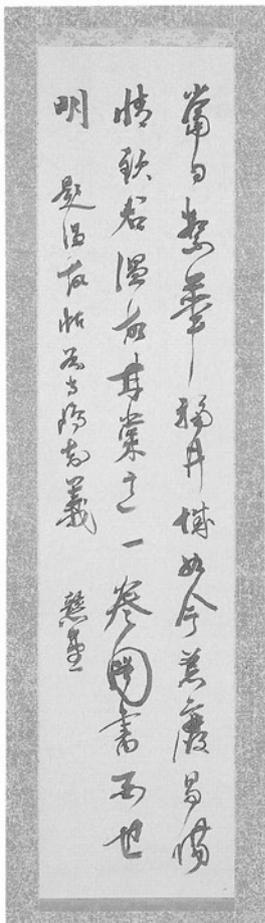
天下の事成就せり

慶応3年(1867)11月1日、龍馬が再び福井へやってきました。龍馬は、久しぶりに春嶽と再会し、土佐藩士後藤象二郎よりの上京要請を伝えています。翌日三岡(由利)と城下町の旅館「たばこや」で議論を交わしました。

当時、三岡は、謹慎中であつたため、龍馬は、藩の許可を得て自分の泊まっている宿に、三岡を招きました。三岡には目付として出淵伝之丞と用人の松平源太郎(正直)が付き添い、龍馬のほうは、土佐藩士、岡本健三郎をつれていました。龍馬は、「天下の事」つまり大政奉還が「成就(決定した)したことを告げ、その経過を詳しく語りました。しかし、龍馬は、新政府には、財力も無いし、兵力も無いと頭を抱えます。そこで、三岡は、民衆を安心させるのは、金札発行による富国策であると提案しました。龍馬は、「民富めば国富む」という三岡の意見に感服し、三岡に、新政府の台所つまり、財政を担当して欲しいと頼んでいます。



三岡八郎(由利公正)肖像写真

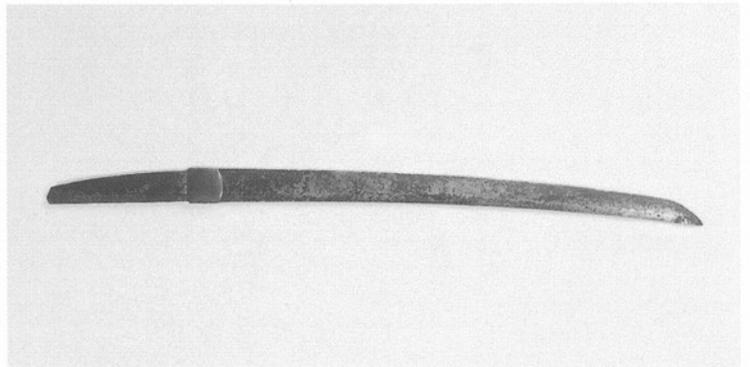


村田氏寿筆「当日華を繋ぐ福井城」の詩幅
当館寄託品(列品No.45)

龍馬と福井の仲間たち

龍馬と親交のあった福井人は、春嶽や三岡(由利)だけではありません。藩士村田氏寿は、彼の著作『続再夢紀事』により龍馬と京都福井藩邸で、対談していることが知られます。その内容は、攘夷運動を過激に進めた長州藩が、下関海峡を航行するアメリカ商船をはじめとして、フランス・オランダの船にまで、砲火を浴びせた事件について、龍馬は、「このままでは長州が西欧列強に占領されてしまう。国内の論を整理しなければならないから幕臣の勝海舟や大久保一翁、春嶽父子や土佐の前藩主山内容堂などの理解者を上洛させて一挙に解決すべきだ」と解きます。当然氏寿は、長州の軽率な行為を批判して、その要請を簡単には受け入れません。そこで龍馬が、後日再度村田を訪ね「天下の公論」によって、長州問題に対処することで意見が一致しました。

越前出身者で海援隊士になったのは、腰越次郎(渡辺剛八・大山壮太郎・柴田八兵衛とも名乗る)ら6人とみられます。中でも武生出身の関義臣(山本龍二)は、福井藩の陪臣(藩士の家臣)でしたが、藩の公武合体論に反対し、その後も生涯三岡(由利)と対立しました。また、長崎では、弟の自宅を海援隊本部として提供していた小曾根乾堂が、福井藩御用商人でした。このように、龍馬と関わりをもった越前関係者は少なくなかったようです。



坂本龍馬を斬った刀[銘 越後守包貞(偽名)] 霊山歴史館蔵(列品No.51)

三. 龍馬精神を受け継いで

龍馬の最期と福井藩の遺したもの

もう少しで明治に手が届く慶応3年(1867)11月15日、京都河原町の近江屋の二階で、中岡慎太郎と面談していた坂本龍馬は、突然中岡と共に刺客に襲われました。襲ったのは京都守護職配下にあった京都治安部隊というべき見廻組でした。龍馬は、眉間を深く傷つけられ、

ほぼ即死状態だったようです。二人の鮮血で、部屋は染まりました。中岡も二日後に亡くなっています。当時の福井藩の最も良き理解者でありました坂本龍馬は、このように33歳という若さで、非業の死を遂げました。龍馬亡き後、福井藩の三岡八郎(由利公正)は、龍馬の果たせなかった仕事を受け継ぎます。一つは、龍馬が新政府の方針として創った「船中八策」を更に吟味して「五箇条の御誓文」の原案をつくりました。この原案は、やはり龍馬と親交が深かった土佐の福岡孝弟や長州の木戸孝允(桂小五郎)が手を加えて完成します。今一つは、龍馬が心配していた新政府の財政でした。維新後由利は、徴士・参与となり、御用金取扱を命じられます。かつて「たばこや」で龍馬に語った通り、会計基金3000万両(推定約1500億円)の金札(太政官札)を発行しました。残念ながら「金高札安」を招き結果論としては成功したとはいえませんが、由利は龍馬との約束を果たし新政府の財政基盤をつくりました。

展示品一覧 (資料保護のため、会期中5度にわたり陳列替えがあります。)

一、「土佐の風雲児」坂本龍馬

龍馬誕生—その家系と生い立ち—

- ◎①坂本家先祖書並系図 坂本長兵衛筆「先祖書差出控」 天保九年一月
- ◎② 「坂本氏家系図」一
- ◎③ 坂本権平作成「坂本氏家系図」二 明治三年十月
- ◎④ 坂本権平作成「坂本氏家系図」三 明治三年十月
- ◎⑤ 「高松太郎書簡写」坂本権平ほか宛
- ◎⑥ 「坂本龍馬書簡写」坂本権平一同宛
- ◎⑦ 「板垣退助碑文」 大正三年
- ◎⑧ 「奏状写」 文久三年七月

①～⑧ 一巻 京都国立博物館蔵

- ◎⑨小栗流和兵法事目録 嘉永六年三月 一巻 京都国立博物館蔵
- ◎⑩小栗流和兵法十二箇條并二十五箇條 嘉永七年(安政元年)閏七月 一巻 京都国立博物館蔵

龍馬立つ

- ◎⑪龍馬乃遺墨雄魂姓名録並海援隊日史秘記「雄魂姓名録」 慶応三年頃カ
 - ◎⑫ 「海援隊商事秘記」 慶応三年九月頃
 - ◎⑬ 「海援隊日史」 慶応三年四～七月頃
- ⑪～⑬ 一巻 京都国立博物館蔵
- ⑭坂本龍馬肖像画 公文菊僊筆 絹本着色 一幅 霊山歴史館蔵
 - ⑮坂本龍馬着用紋服(複製) 一領 霊山歴史館蔵
 - ◎⑯坂本龍馬所用西陣織製「三徳」 一 京都国立博物館蔵
 - ⑰刀 銘吉行作 伝坂本龍馬遺物 一振 京都国立博物館蔵
 - ◎⑱坂本龍馬桂小五郎遺墨「坂本八平訓戒書」坂本龍馬宛 嘉永六年三月
 - ◎⑲ 「桂小五郎書簡」坂本龍馬宛 慶応二年二月二十二日付
 - ◎⑳ 「坂本龍馬詠草一」年代不詳
 - ◎㉑ 「坂本龍馬詠草二」年代不詳
 - ◎㉒ 「坂本龍馬書簡」長岡謙吉宛 慶応三年八月五日付
 - ◎㉓ 「坂本龍馬書簡」乙女・おやべ宛 慶応三年六月二十四日付
 - ◎㉔ 「坂本龍馬書簡」乙女宛 文久三年六月二十九日付
 - ◎㉕ 「坂本龍馬詠草三(俚語)」年代不詳
 - ◎㉖ 「坂本龍馬書簡」坂本権平宛 慶応三年十月九日付
 - ◎㉗ 「高松千鶴書簡」坂本龍馬宛 推定安政三年秋
 - ◎㉘ 「坂本龍馬書簡」乙女・おやべ宛 慶応元年九月九日付
 - ◎㉙ 「坂本龍馬書簡」乙女宛 慶応二年十二月四日付
 - ◎㉚ 「坂本龍馬書簡」乙女宛 慶応三年四月付
 - ◎㉛ 「坂本龍馬書簡」乙女宛 文久三年三月二十日付
- ⑱～㉛ 一巻 京都国立博物館蔵
- ◎㉜木戸孝允筆「都々逸」の幅 紙本墨書 一幅 霊山歴史館蔵

二、福井藩と坂本龍馬

龍馬來福

- ◎③小曾根乾堂筆「龍馬精神海鶴姿」の書幅 紙本墨書 一幅 当館蔵

※◎印は国指定重要文化財を表します。

- ◎③勝海舟筆「大船のたゆたふおりはひとすちに」の和歌賛碇の図幅
- ◎⑤ 紙本墨書 一幅 福井市春嶽公記念文庫蔵
由利公正・加藤斌・蒔田雲處・関義臣他筆書簡山本怡仙宛他貼交屏風
紙本墨書 六曲一隻 武生市公会堂記念館蔵
- ◎⑥松平春嶽筆『逸事史補』原本 一冊 福井市春嶽公記念文庫蔵
- ◎⑦松平春嶽筆『閑窓兼筆』原本 一冊 福井市春嶽公記念文庫蔵
- ◎⑧横井小楠銅版肖像画 紙本銅版刷 一枚 福井市春嶽公記念文庫蔵
- ◎⑨村田氏寿著『続再夢紀事』稿本第五巻 一冊 福井市春嶽公記念文庫蔵

天下の事成就せり

- ◎⑩由利公正筆「坂本龍馬三岡八郎会見顔末」紙本墨書 一巻 丹波川蔵
- ⑪三岡丈夫編『由利公正傳』大正五年八月十五日刊洋活字本 一冊 当館蔵
- ◎⑫森恒救(紫南)著『福井城の今昔』第四巻 写本 一冊 当館蔵
(旧市立福井図書館本)

龍馬と福井の仲間たち

- ◎⑬木戸孝允筆歌謡(「清元」一節)の幅—福井の友人宛—紙本墨書 当館蔵
- ◎⑭坂本龍馬書簡村田氏寿(巳三郎)宛 文久三年七月八日付
(写真版・複製) 一幅 霊山歴史館蔵
- ◎⑮村田氏寿筆「当日華を繋ぐ福井城云々」の詩幅 紙本墨書 一幅
個人蔵(当館寄託品)
- ◎⑯関義臣筆付箋のある芳賀八彌著『由利公正』 一冊 武生市立図書館蔵
- ◎⑰関義臣歌集『秋聲窓詠草鈔』 一冊 当館蔵(旧市立福井図書館本)
- ◎⑱関義臣著『秋聲窓詩鈔』『秋聲窓文鈔』 三冊 当館蔵(旧市立福井図書館本)

三、「龍馬精神」を受け継いで

龍馬の最期と福井藩の遺したもの

- ◎⑲スミス・アンド・ウエッソン第二型短銃(複製) 一挺 霊山歴史館蔵
- ◎⑳桂 早之助所用刀(銘 越前国住人兼則) 一振 霊山歴史館蔵
- ◎㉑坂本龍馬を斬った刀 銘「越後守包貞」(偽名) 一振 霊山歴史館蔵
- ◎㉒板倉槐堂筆「梅椿図」 一幅 京都国立博物館蔵
- ◎㉓近江屋旧蔵「書画貼交屏風」 一隻 京都国立博物館蔵
- ◎㉔中岡慎太郎肖像画 大黒竹夫筆 絹本着色 一幅 霊山歴史館蔵
- ◎㉕中岡慎太郎著「時勢論」 一冊 霊山歴史館蔵
- ◎㉖坂本龍馬肖像写真 上野彦馬撮影 一枚 霊山歴史館蔵
- ◎㉗「五箇条の御誓文」草案(複製) 一巻 当館蔵
- ◎㉘由利公正筆「五箇条の御誓文」の書幅 絹本墨書 一幅 個人蔵
(当館寄託品)
- ◎㉙太政官札 金拾両・金壹分 計二枚 当館蔵
- ◎㉚由利公正筆 自詠和歌幅 絹本墨書 一幅 当館蔵

【記念講演会】

日時:平成16年3月27日(土)
午後2:00～午後3:30
場所:当館講堂
演題:「史料が語る坂本龍馬」
講師:宮川禎一
(京都国立博物館主任研究官)

日時:平成16年4月3日(土)
午後2:00～午後3:30
場所:当館講堂
演題:「天下の事成就せり
—福井藩と坂本龍馬—」
講師:角鹿尚計(当館学芸員)

日時:平成16年4月11日(日)
午後2:00～午後3:30
場所:当館講堂
演題:「龍馬暗殺の真相に迫る」
講師:木村幸比古
(霊山歴史館学芸課長)

【ギャラリートーク】

- 平成16年3月21日(日) 午後5時～
 - 3月22日(月)～3月31日(水)の間で10回
 - 4月1日(木)～5月5日(水)
- ※担当学芸員がみどころを随時解説します。

『展示解説シート No.3』平成16年3月21日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 角鹿 尚計